

■外部からの意見聴取（外部評価・試行）を終えての意見等

①広報紙発行事業

企画部人事秘書課

評価の視点		平均点	内 容	
評 価 シ ー ト に つ い て	市民感覚と乖離していないか	3. 4	<ul style="list-style-type: none"> ・説明が無ければ、理解ができない。 ・紙面は、情報の羅列が目立つ。 ・手に取って読もうという市民目線、楽しみや親しみが少ない。 	
	適正な評価結果となっているか	3. 6	<ul style="list-style-type: none"> ・必要性では、「その他の場合の理由」欄の記載が無い。 	
	事業内容等を分かりやすく説明できているか	3. 4	<ul style="list-style-type: none"> ・広報の内容についての視点が無い。 	
	必要性	市民ニーズ等を的確に捉えているか	3. 3	<ul style="list-style-type: none"> ・市民の欲しがる情報を丁寧に分かりやすく提供して欲しい。
	有効性	指標・目標等の設定は適切であるか	3. 3	<ul style="list-style-type: none"> ・発行回数、部数は、清須市として妥当と考える。 ・本来は発行回数や発行部数ではなく、市政ニュースの市民への周知が、広報紙によってどの程度達成されたかを指標とすべきである。 ・少なくとも部数は人口増減の結果に過ぎず、評価しようがない。
		目標達成に向けた課題等を的確に把握しているか	2. 7	<ul style="list-style-type: none"> ・見やすく分かりやすく、伝えたいことが伝わりやすい紙面づくりを常に意識することが必要である。 ・課題等については、何も記載がない。
	効率性	効率的に施策・事業に取り組んでいるか	2. 7	<ul style="list-style-type: none"> ・入札によることは時代の流れであり、施策とは言えない。
今後の方向性	取組内容等の考え方は適切であるか	2. 6	<ul style="list-style-type: none"> ・事業規模等は「現状維持」ではなく「改善・改良」を目指すべきである。 ・インターネットの活用や配布方法の検討によって、目的を達成しながら事業費を削減していく取組が必要である。 ・現状に満足することなく、改善・改良を図るべきである。 	
説 明 に つ い て	説明は分かりやすかったか	3. 7	<ul style="list-style-type: none"> ・内容に踏み込んだ説明が欲しかった。 ・非常に丁寧であった。 	
	添付資料は分かりやすかったか	2. 5	<ul style="list-style-type: none"> ・資料は無かった。 	
	質疑に対する的確な回答ができていたか	3. 4	<ul style="list-style-type: none"> ・各部署から提出される原稿の責任にしているが、広報担当として、役所内で責任を持って方向性を示していく必要がある。 ・今後の方向性に関する質問に、現状維持を前提とした回答が多かったが、より積極的に改善に取り組むべきである。 ・非常に的確な回答であった。 	

そ
の
他

- ・意見聴取時は、広報紙発行事業の内部評価に対する質問ではなく、広報紙の内容に関する質問及び意見ばかりで、本来の意図とは異なる会議内容になったと考える。
- ・財源確保の為に、広告も検討してはどうか。
- ・情報周知だけであれば、紙質を落としても良いのではないか。
- ・高齢者へのサービス内容、シルバーの仕事内容、出前講座一覧等、具体的なものを作成してはどうか。
- ・広報紙という「活字メディア」は必要であるが、インターネットが普及している今日、必要としている人だけに配布しても良いのではないかと思う。
- ・市民満足度調査結果が、個々の事業に対する評価ではないので、各事業の施策・事業評価シートに市民満足度調査結果を載せることは、意味が無いことと考える。
- ・事前に質問を取りまとめて提出しなければ、添付資料も会議の場には出てこないだろうし、内容の濃い回答も得られないと考える。
- ・希望事業を提出した後、多数票という理由だけで企画部側が事業を決定するのは、一つも採用されなかった評価者のモチベーションが下がり問題である。希望事業を提出後、担当委員が集まり、意見を交わしあって評価する事業を決めることで、認識が共通化され内容の濃い会議になると考える。
- ・企画部企画政策課は会議の進行役であり、中立な立場でなければならない。委員の質問に対して、担当部署の代わりに答えるようなことは行ってはいけないと考える。

②コミュニティ活動推進事業

総務部防災行政課

評価の視点		平均点	内 容	
評価シートについて	市民感覚と乖離していないか	3.6	・説明がなければ、理解が困難な事業である。	
	適正な評価結果となっているか	3.0	・有効性では、連携交付金以外は一切記載が無い。	
	事業内容等を分かりやすく説明できているか		3.0	・「自然共生」を「自然強制」と誤記されている。 施策・事業評価シートの記述について、事前にチェックを徹底すべきである。 ・町内会等に携わる人にしか馴染みが無い事項なので、事業実施は仕方がない。
	必要性	市民ニーズ等を的確に捉えているか	3.1	・コミュニティ活動の必要性は「高い」と思う。 ここに市の重要度を傾け、市民の安心・安全、絆を守ってもらいたい。 ・[その他の場合の理由]の記載が無い。
	有効性	指標・目標等の設定は適切であるか	3.0	・ブロック制の実効性を高めるためには、自治会連携推進交付金の対象となる事業数も指標・目標とすべきである。 ・[その他の場合の理由]の記載が無い。
		目標達成に向けた課題等を的確に把握しているか	3.7	意見無し
	効率性	効率的に施策・事業に取り組んでいるか	3.3	・自主防災活動支援事業との役割分担と連携を図っていくことが今後とも必要である。 ・自主防災組織の資材補助金へと振替えていく考えは良い。
今後の方向性	取組内容等の考え方は適切であるか	3.6	・地域にお任せでなく、ブロックで馴染めない地域には、積極的に助言も必要ではないか。 ・事業規模等は、「改善・改良」を目指すべきである。 ・取組の方向性は適切だと考えられるが、ブロック化の必要性をより一層市民に周知することが求められる。 ・ブロックに出向き、説明していくことは良い。 ・事業内容は、現時点ではやむを得ない。	

評価の視点		平均点	内 容
説明 につ いて	説明は分かりやすかったか	4. 1	・非常に丁寧であった。
	添付資料は分かりやすかったか	2. 7	・事業費の総額だけでなく、運営費の補助金・事業費補助金・自治会連携推進交付金の額の推移を示した資料があれば、説明がより分かりやすかった。
	質疑に対する的確な回答ができていたか	4. 3	・非常に的確な回答であった。
そ の 他	<ul style="list-style-type: none"> ・二重行政とならないよう、社会福祉協議会（社協）との話し合いを深めて無駄を省くべきである。 ・市民は、どの事業が市の補助金で、どの事業が社協の補助金か区別ができない。社協と連携していく必要があると思う。 ・施策・事業名が「コミュニティ活動推進事業」となっているが、コミュニティ活動を推進するのは市民あるいは自治体である。市は、コミュニティ活動を支援する立場であり、本来は「コミュニティ活動支援事業」とするべきだと思われる。適切な機会に事業名を検討されたい。 ・市民満足度調査結果が個々の事業に対する評価ではないので、各事業の施策・事業評価シートに市民満足度調査結果を載せることは、意味が無いことと考える。 ・事前に質問を取りまとめて提出しなければ、添付書類も会議の場に出てこないだろうし、内容の濃い回答も得られないと考える。 ・希望事業を提出した後、企画部側において、ただ多数票で事業を決定するのは、一つも採用されなかった評価者のモチベーションが下がり問題と考える。希望事業を提出後、担当の委員が集まり意見を交わしあって評価する事業を決めることで、認識が共通化され内容のより濃い会議になると考える。 		

③ごみ収集委託業務事業

市民環境部生活環境課

評価の視点		平均点	内 容
評価シートについて	市民感覚と乖離していないか	3. 1	<ul style="list-style-type: none"> ・施策を出せば進むと思ったら大間違い。積極的に広報し、具体的に行動を行って欲しい。 ・市民から見て、必死にごみ減量を図る姿勢が見えない。二言目に、これだけの人数ではできないと言われるが、努力を行って欲しい。 ・説明がなければ、理解ができない。
	適正な評価結果となっているか	2. 6	<ul style="list-style-type: none"> ・ごみの分別処理の強化指標に対する目標設定値が、事業趣旨から外れているのではないか。
	事業内容等を分かりやすく説明できているか	2. 9	<ul style="list-style-type: none"> ・「地域の生活環境を保全」とあるが、経費削減環境を守ると言う視点をはっきり出すべきである。
	必要性 市民ニーズ等を的確に捉えているか	3. 7	<ul style="list-style-type: none"> ・予算ベースで目標としていることが理解できない。例えば、1,000万円削減の予定で900万円だったとすると、目標に達しなかった分をどのようにして削減するのか明確ではない。 ・「ごみの分別処理の強化」という指標や、そのための目標として何を設定したのかが不明確である。 ・ごみの分別処理の強化指標に対する目標設定値が、事業趣旨から外れているのではないか。
	有効性 指標・目標等の設定は適切であるか	2. 1	<ul style="list-style-type: none"> ・広報等の啓発だけで減量・分別はできない。具体的に、どこまで、どのようにして削減するのか明確でない。 ・可燃ごみの削減のための課題をよりの確に把握する必要がある。例えば、生ごみ処理機の利用実態の把握と改善の方策などである。 ・家庭での生ごみ処理の推進自体、効果に疑問がある。
		3. 1	<ul style="list-style-type: none"> ・広報等での啓発だけで減量・分別は出来ない。具体的に、どこまで、どのようにして削減するか明確でない。 ・可燃ごみの削減のための課題をよりの確に把握する必要がある。例えば、生ごみ処理機の利用実態の把握と改善の方策などである。 ・家庭でのごみ処理の推進自体、効果に疑問がある。
	目標達成に向けた課題等を的確に把握しているか	3. 1	<ul style="list-style-type: none"> ・広報等での啓発だけで減量・分別は出来ない。具体的に、どこまで、どのようにして削減するか明確でない。 ・可燃ごみの削減のための課題をよりの確に把握する必要がある。例えば、生ごみ処理機の利用実態の把握と改善の方策などである。 ・家庭でのごみ処理の推進自体、効果に疑問がある。

評価の視点		平均点	内 容
評価シートについて	効率性	2.7	<ul style="list-style-type: none"> ・プラスチックや硬質プラスチックの処理等、市民への周知の仕方を考えるべきである。 ・小学校で分別収集を取り組むことによって、意識を年少のうちから育てることは良いと思う。 ・対象となる平成24年度のことが、何も書かれていない。 ・委託先の名古屋市焼却処理施設の事業に伴う効率化であって、清須市独自でできる効率化対策が無い。
	今後の方向性	3.3	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な取組みをしようとしていることは評価する。広報・チラシに載せただけでは、結果は出ない。各地に出向き、現状を語り、その必死さが市民を動かすのではないか。 ・具体的な取組内容が不明である。
説明について	説明は分かりやすかったか	2.6	<ul style="list-style-type: none"> ・施策・事業評価シートのみでは、内容不足である。 ・非常に分かりにくかった。
	添付資料は分かりやすかったか	2.5	<ul style="list-style-type: none"> ・4Rの説明をどれだけ行っても減量には繋がらない。可燃・不燃・プラスチック等、数値や金額を入れた資料が欲しい。 ・ごみ全体の処分費や処分量だけでなく、ごみの種類ごとの処分費や処分量の推移を示す資料があれば良かった。
	質疑に対する的確な回答ができていたか	2.9	<ul style="list-style-type: none"> ・施策の実現に向けて、具体性に欠ける。 ・的確に回答できていないと感じた。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・市民は、ごみの運搬・処理に、清須市として10億円を超える経費を使っていることを認識していない。数値の羅列ではなく、市民が「これではいけない」と思うような説明が必要、そうすれば市の施策に努力しようと思ってくれるのではないか。 ・環境問題を意識して、ごみ減量を考えることが大切であると思う。 ・資源ごみや不燃ごみが減少傾向の中で、「可燃ごみが増加傾向である」という説明であったが、増加傾向にある可燃ごみの量を削減していくためには「可燃ごみの処分費」を指標とし、その目標を設定して、目標達成のためのより積極的・効果的方策が求められる。 ・市民満足度調査結果が個々の事業に対する評価でない。各事業の施策・事業評価シートに市民満足度調査結果を載せることは、意味が無いことと考える。 ・事前に質問を取りまとめて提出しなければ、添付資料も会議の場に出ないだろうし、内容の濃い回答も得られないと考える。 ・希望事業を提出した後、企画部側において、ただ多数票で事業を決定するのは、一つも採用されなかった評価者のモチベーションが下がり問題と考える。希望事業を提出後、担当の委員が集まり、意見を交わしあって評価する事業を決めることで、認識が共通化され内容のより濃い会議となると考える。 		

④社会福祉協議会運営費等補助推進事業

健康福祉部社会福祉課

評価の視点		平均点	内 容	
評価シートについて	市民感覚と乖離していないか	3. 8	・熱心に取り組んでいるように見受けられる。	
	適正な評価結果となっているか	3. 2	意見無し	
	事業内容等を分かりやすく説明できているか	3. 4	・どこまで分かる必要があるかも考えてしまう。	
	必要性	市民ニーズ等を的確に捉えているか	3. 6	・補助団体の育成・指導も行政として大切なことであるから、今後とも怠りなく事業を通してお願いしたい。 ・市民のニーズは高いので、しっかりと受け止めて欲しい。ただし、市民の努力や学習も必要と思われる。
	有効性	指標・目標等の設定は適切であるか	3. 5	・ボランティア団体数を団体加入者数へ変更しても良いのではないかと。
		目標達成に向けた課題等を的確に把握しているか	3. 2	・目標を的確に設定できているのか、疑問である。
	効率性	効率的に施策・事業に取り組んでいるか	3. 4	・他市の同種事業と比較し、予算減額を打ち出しているが、当市はどのように事業を行いたいのか分からない。
今後の方向性	取組内容等の考え方は適切であるか	3. 4	・いろいろな取り組みがあり、一様ではない。	
説明について	説明は分かりやすかったか	3. 4	・早口だったので聞き取りとりにくかった。	
	添付資料は分かりやすかったか	3. 7	意見無し	
	質疑に対する的確な回答ができていたか	3. 2	・判断の仕方がいろいろあり、基準が分かりにくい。	
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・事業で何が起きているのか見えてこないで、数字だけでは判断しにくい。 ・市民ニーズの高さには応えていると思うが、市民への指導や育てる学習も必要なのではないか。 ・熱心に取り組んではいるが、社会状況もあり物事を決定しにくいところもあるのではないかと。 ・市民ニーズが高く、重要としながら、予算削減しているにもかかわらず「現状維持」と評価することは矛盾している。 ・社会福祉協議会の会員数を増やすことに努力して欲しい。 			

⑤道路改良事業

建設部土木課

評価の視点		平均点	内 容	
評価シートについて	市民感覚と乖離していないか	3.8	意見無し	
	適正な評価結果となっているか	4.2	・全てに良いかどうかは、分からない。	
	事業内容等を分かりやすく説明できているか	3.8	・多くの資料を揃えていただき、それだけでも努力が伝わってきた。	
	必要性 市民ニーズ等を的確に捉えているか	3.8	・快適な街づくりに合わせ、安全・安心な明るい街づくりのために、街路灯事業も一体で今後も道路網整備に取り組んでいただきたい。 ・将来に向けて、便利・安全が確保されるので良いと思えた。	
	有効性 指標・目標等の設定は適切であるか	指標・目標等の設定は適切であるか	3.6	・目標・実績の表記を考えるべきである。
		目標達成に向けた課題等を的確に把握しているか	4.2	意見無し
	効率性 効率的に施策・事業に取り組んでいるか	3.6	・工事期間等、翌年度に伸びているのはよくない。	
今後の方向性 取組内容等の考え方は適切であるか	4.2	意見無し		
説明について	説明は分かりやすかったか	4.4	・資料が詳しく示してあったので、分かりやすかった。	
	添付資料は分かりやすかったか	4.2	・写真での資料は、取り組む前と後とではっきりしており、とても分かりやすかった。	
	質疑に対する的確な回答ができていたか	4.0	・何を聞いて良いのか分からず、質問ができなかった。	
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・道路改良事業について、内容を詳しく知らなかったが、資料を見る限り丁寧に出来ていると評価できた。詳しい資料が提出できるということは、自信を持っていると思えた。 ・道路等の整備について、取り組む順はどのような決められているのか説明して欲しかった。 			

⑥スクールカウンセラー配置事業

教育部学校教育課

評価の視点		平均点	内 容	
評価シートについて	市民感覚と乖離していないか	4.0	・市民もカウンセラーの必要性には、理解をしていると思える。	
	適正な評価結果となっているか	3.6	・何が適正なのか中身が見えてこないが、指導員の配置については適正と思える。	
	事業内容等を分かりやすく説明できているか	3.4	・説明の仕方次第で、表現はどのようにでも取れる。	
	必要性	市民ニーズ等を的確に捉えているか	3.8	・これから更にニーズが高まっていく事業の一つであるから、更なる充実を図っていただくようお願いする。 ・相談したい相手より、取り巻く周りの人の理解に温かいものがあるのか、疑問である。
	有効性	指標・目標等の設定は適切であるか	3.4	・部屋の雰囲気作りにも気を配る必要性を感じる。 ・相談者数を延人数のみで把握している。実人数・回数の把握が必要ではないか。
		目標達成に向けた課題等を的確に把握しているか	4.0	・人数の増加をどのように分析するのかわで、変わってくると思う。
	効率性	効率的に施策・事業に取り組んでいるか	4.0	・週1回等で相談を合わせるには、無理があるように思える。 ・効率性の重視だけで良いのか。
今後の方向性	取組内容等の考え方は適切であるか	3.6	・連携の仕方を考え、より一層の効果を出していくべきであるので、その取組みも具体的に考えて欲しい。 ・年間の回数の減少、7時間から6時間への短縮は、「事業の縮小」ではないか。 ・根本的な取組みが、重視されるべきではないか。	
説明について	説明は分かりやすかったか	4.2	・担当課からの説明は、もったもであると感じた。	
	添付資料は分かりやすかったか	3.7	意見無し	
	質疑に対する的確な回答ができていたか	4.0	・質問に対しては、応じていただけた。	
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・効果等の内面的な内容は、公表されることに時間が掛かるので、はっきりした答えは出しにくい。まして、数字だけに捉われるのではなく、信頼性の方を大事に考えて欲しい。カウンセラーが、熱心に取り組んでみえるとのことで安心している。ただし、相談を待っているだけでなく、予防方法を学習する機会もあって良いのではないかと思う。 ・当初、週7時間・年45回とした事業計画の目標は何だったのか。相談者の状況を考え、6時間の35回で充分と考えたのか、市民ニーズに充分応えられているのか。 ・事業の目的だけのカウンセラーではなく、生徒一人ひとりの為に、的確に対応できる人材を選んで欲しい。 			

